

令和2年7月～9月期
地域産業経営動向調査
〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関
堺商工会議所 〕

調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数D I値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所800社（建設業200社・製造業200社・卸売業100社・小売業100社・サービス業200社）
3. 調査期間 令和2年9月11日（金）～9月25日（金）

4. 回収率		<u>調査対象数</u>	<u>回収数</u>	<u>回収率</u>
	建設業	200社	100社	50.0%
	製造業	200社	103社	51.5%
	卸売業	100社	50社	50.0%
	小売業	100社	50社	50.0%
	サービス業	200社	100社	50.0%
	全産業	800社	403社	50.3%

【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- D I 値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

【各項目別のD I 値の意味について】

- 業況判断 … D I 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … D I 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … D I 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
⇒今期状況 … D I 値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … D I 値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … D I 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
⇒今期状況 … D I 値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

調査結果の概観

今期(7月～9月期)の前年同期比を見ると、業況判断、売上高、採算、資金繰り及び雇用人員は改善となった。

来期(10月～12月期)の予測については、業況判断、売上高は改善、雇用人員は横ばい、採算はやや悪化、資金繰りは悪化となった。

前期から一転、数値の推移としては改善傾向にあるものの、数値自体は低水準であるなど、新型コロナウイルス感染症の影響を懸念する見方が強い中、引き続き市内中小企業の動向については、注視していく必要がある。

1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標は改善。
($\Delta 72.4 \Rightarrow \Delta 62.0$)

・来期見通しの指標は改善と予測。
($\Delta 62.0 \Rightarrow \Delta 52.9$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、製造業、卸売業、小売業及びサービス業は改善。

・前年同期比の指標は改善。



2. 売上高の動向

・前年同期比の指標は改善。
($\Delta 67.1 \Rightarrow \Delta 58.6$)

・来期見通しの指標は改善と予測。
($\Delta 58.6 \Rightarrow \Delta 55.3$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、製造業、卸売業、小売業及びサービス業は改善。

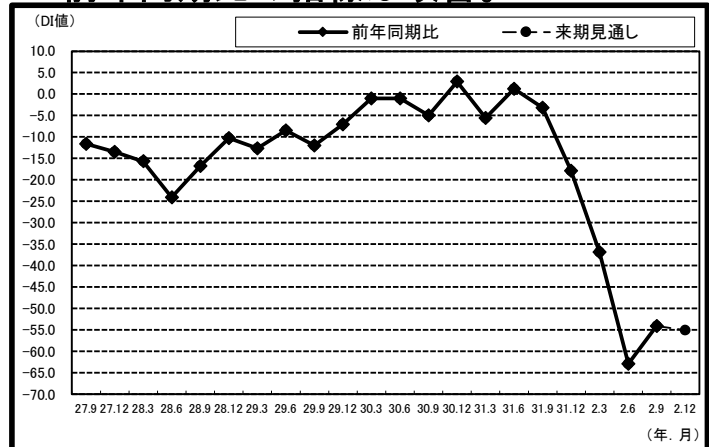
・前年同期比の指標は改善。



3. 採算の動向

- ・前年同期比の指標は改善。
($\Delta 62.9 \Rightarrow \Delta 54.1$)
- ・来期見通しの指標はやや悪化と予測。
($\Delta 54.1 \Rightarrow \Delta 55.1$)
- ・業種別に前年同期比の指標を見ると、
建設業、製造業、卸売業、小売業及び
サービス業は改善。

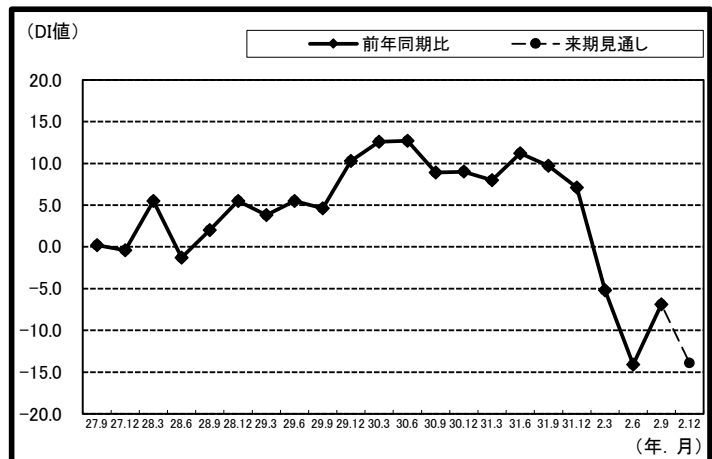
・前年同期比の指標は改善。



4. 資金繰りの動向

- ・前年同期比の指標は改善。
($\Delta 14.1 \Rightarrow \Delta 6.9$)
- ・来期見通しの指標は悪化と予測。
($\Delta 6.9 \Rightarrow \Delta 13.9$)
- ・業種別に前年同期比の指標を見ると、
建設業、卸売業、小売業及びサービス業
は改善、製造業はやや悪化。

・前年同期比の指標は改善。



5. 雇用人員の動向

- ・前年同期比の指標は改善。
($\Delta 8.8 \Rightarrow \Delta 5.0$)
- ・来期見通しの指標は横ばいと予測。
($\Delta 5.0 \Rightarrow \Delta 4.5$)
- ・業種別に前年同期比の指標を見ると、
卸売業、小売業及びサービス業は改善、
建設業はやや改善、製造業は悪化。

・前年同期比の指標は改善。

